

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

作成日：2023 年 8 月 31 日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」		
ゼミ名	国際関係		
講師幹事名	鈴木 庸一	大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学 期	2023 年春夏・秋冬	開講時間	水曜 4～5 時限

【授業の目的・到達目標】

第二次世界大戦後米国主導で築かれた国際秩序のもと国際社会は総じて安定的に発展し、世界経済は拡大、南北間の格差も一貫して縮小してきた。冷戦後の 20 世紀の最後の 10 年間でその体制はさらに強化されるはずであった。しかし国際秩序のさらなる強化は進まず、21 世紀に入りむしろ徐々に綻びが見え始め、昨年 2 月のロシアによるウクライナ侵略により「ポスト冷戦」時代は完全に終わりを迎えた。現在ウクライナ戦争終結への道筋が見えない中で米欧日を中心とした民主主義諸国はウクライナ支援の継続と民主主義の強靱性の維持と言う大きな課題を背負い国際秩序の再構築を模索している。

他方インド太平洋地域は米中間の緊張の高まり、台湾を巡る情勢の緊迫化、中露の連携強化、北朝鮮の核開発などこれまた多くの緊張・不安定要因を抱えている。

民主主義対権威主義の対峙、あるいは「新たな冷戦」とも呼ばれる世界のブロック化が生じつつある中で、日米同盟、国連をはじめとする多角的国際秩序の維持強化、アジア諸国との協力関係強化を主たる外交の柱として日本は国益を守るべく外交を展開してきたが、新たな国際情勢に下で今後どのような課題に対処していくことになるのか。

さらには地政学的な諸問題に加えて異常気象の激化の前に温暖化対策、脱炭素化対策は待ったなしであり、コロナ禍の経験を 10 年以内にあるとも言われる新たなパンデミックに生かしより良い備えをする必要がある。地球規模のこのような課題に対処するためにも深刻な制度疲労を起こしている多国間の枠組みを通じた国際協力の再構築は可能であろうか。

本ゼミでは、このような状況の中で国際社会はどのような行動原理で動いているのかについて概観し、様々な国際問題について理解を深め、今後の国際秩序がどのように発展するかを見る視点を養う。同時に国際関係の第一線にいるということはどういうことかについて各講師の実践的経験を踏まえて理解を養う。

【上記目的・目標達成方法】

外務省OB及び現役の各講師が分担して実務体験と外交現場の感覚を踏まえて、現下の主要な外交・国際問題についての知見を学生と共有し、共に考え、議論する機会を設ける。多国間体制については、20 世紀後半多角的ルールの下で機能していた国際秩序の維持する体制がなぜ後退しているのか、日本外交は現場でどのように対応してきたのか、今後新たな国際秩序が形成されていくのか、国連及び WTO といった多国間協議の現場での交渉の実態を紹介しながら学生の実践的理解を深め、そのような現場に関わることにについて、考えるきっかけや気づきの機会を提供する。ゼミに参加する学生同士の議論を奨励する形で理解と議論を深めていきたい。

【授業の内容と計画】

月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 (※役職は作成日現在)	講義内容
9/20 (4 限のみ)	鈴木 庸一	S50 (法)	元駐フランス大使 元日 EU 経済連携協定交渉 首席交渉官	[4 限] 本ゼミの序論として現下の国際情勢と日本外交の抱える諸課題を概観する。
12/13 (4, 5 限)				[4 限] 日本政府の経済外交について交渉現場でのやり取りをベースに議論する。その中で一方で多角的国際貿易秩序である WTO 体制の現状と将来を分析し、他方で TPP をはじめとする地域的アプローチの意味について論じる。さらに米国の対中貿易政策に見られる経済安全保障政策と世界経済のブロック化の得失を論じる。 [5 限] 日本を巡る国際関係と今後の外交の展開について討論する。

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

				[5 限]
1 2 / 6 (4, 5 限)	竹内 春久	S50 (経)	元駐シンガポール大使	[4限] 日本外交の基本的立ち位置: 日本の置かれた地理的、地政学的条件を概観し、日本国憲法のもとにおける外交の制度的枠組み、指導原則を論ずる。 [5限]戦後の日本と近隣諸国との関係: 戦後の日本と近隣諸国との関係を中国、朝鮮半島との関係を中心に概観する。
1 0 / 4 (4, 5 限)	角 茂樹	S52 (商)	玉川大学、岩手大学、上智大学、川村学園女子大学 客員教授 元ウイーン代表部、国連、バーレーン、ウクライナ大使	ウクライナ情勢: 元ウクライナ大使の視点からロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与える影響について議論します。戦争法規 (Jus ad Belum)、人道法規 (Jus in Bello) の観点からロシアのウクライナ 侵略がいかに現在の法秩序を崩壊させるものであるかについて論じます。日本への影響として憲法9条と国際法との関係についても触れたいと思います。 人権と人道法: 中国の人権問題が問題にされていますが、そもそも人権とは、何かにつて元ジュネーブ人権委員会 (現人権理事会) の日本政府代表を務めた経験から論じます。なぜ人権が重要なのかについて中世キリスト教神学にさかのぼり、世界人権宣言を中心に論じたいと思います。韓国との慰安婦の問題につて、これを外交的にどのようにとらえるかについても論じます。 双方の授業において、外交官の役割についても触れたいと思います。
1 0 / 1 8 (5 限のみ)	齊藤 貢	S55 (社)	東洋英和女学院大学非常勤講師、 国士舘大学非常勤講師、 岡崎研究所コメンテーター、 前イラン大使	1. 日本の原油輸入の約 95% を占める中東地域では紛争が絶えません。中東地域の不安定さの原因、現状、これからの見通しについてお話しします。 (1) 中東地域の原油は日本の生命線ですが、では日本と中東との関係はどうなっているのでしょうか？ (2) 最近の中東情勢。 2. タイは、日本でも人気が高いですが、(1) タイとはどんな国なのか、(2) 日本との関係、6 月の選挙後、タイ情勢が動いていますが、(3) 最近の情勢についてお話しします。 3. 外交官は外国で何をしているのかについてお話しします。
1 0 / 2 5 (5 限のみ)				

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

11/8 (4, 5 限)	神谷 政廣	H24 (経)	外務省大臣官房総務課 課長補佐	[4 限] 外務省の組織作りについて論じる。 [5 限] エネルギー安全保障と気候変動外交の現状と課題について論じる。
11/15 (4 限のみ)	川村 泰久	S56 (法)	元国連大使 前駐カナダ大使 元駐インド公使 ユネスコ国内委員会委員	インド太平洋と日本の安全保障 (日・米・カナダ:北太平洋の安全保障協力体制) 日本の安全保障戦略は一層の強化が求められています。その重心は、抑止力、食糧・エネルギー、そして国際的信頼の確保です。そのため ASEAN・豪州との南太平洋協力と並んで重要なのが日・米・カナダの北太平洋における安全保障協力体制です。「自由で開かれたインド太平洋」を軸に北太平洋の「三本の矢」とも言える日米カナダの協力の現状と課題を議論します。また、これらを実現せんとする外交官の日常や苦悩についても紹介します。
11/22 (4 限のみ)				インド太平洋と日本の安全保障 (インドとの協力) インドと日本の関係は 1000 年以上に及びます。第二次大戦から冷戦へと激動した日・インド関係は、今や歴史的な転換期を迎えています。インド外交には、歴史、宗教、文化、民族、被植民地化の経験と非同盟外交の伝統などが絡むので、「人口 13 億人の世界一の大国」という切り口だけで捉えることは適切ではありません。インドをどう理解し、日本との戦略的な協力を進めていくのがよいかを議論します。外交官の目から見たインドの素顔についてもお話しします。

【テキスト・参考文献】

- 外交青書及び防衛白書 (総論部分)
- 日本国際問題研究所 2022 年版戦略年次報告
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power 。比較的読みやすいのでご関心があれば目を通す価値あり
- 角講師:「ウクライナ侵攻とロシア正教会」角茂樹著 川出夢新書
- 齊藤貢講師:
齊藤貢、2022 年、「イランは脅威かーホルムズ愛嬌の大国と日本外交」、岩波書店
酒井啓子、2013 年、「中東の考え方」、講談社
池内恵、2016 年、「中東の大混迷を解く サイクス・ピコ協定 100 年の呪縛」、新潮社
- 川村講師:
「インド太平洋戦略の地政学」ブレンドン・キャノン・墓田桂編著 (2022 年 中央公論新社)
「インド外交の流儀」S・ジャイシャンカール著 (2022 年 白水社)
「国際秩序」ヘンリー・キッシンジャー著 (2022 年 日経 BP 社)

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

- その他の講師からも講義前に読むべき参考文献についてゼミ学生幹事より連絡の可能性がありますので、読むようにしてください。

【受講生に対するメッセージ、希望】

- 学生幹事を通じて各講師よりゼミに前に簡単な課題を出すことがあるので、そのような場合は準備してゼミの臨んでください。
- 学生による discussion を奨励します。積極的に発言することを期待します。特に4, 5限を通してやる講義では5限は discussion が中心になる事が多いです。
- 講義内容に関係のあると思われるマスコミ報道等に注目し、自分なりの疑問点、問題意識を整理しておいてください。
- 齊藤講師：
 - ① 急速な脱炭素化が進んでいますが、脱炭素化のスピードに現実が追いつかず、現在、世界は、一時的なエネルギー不足に陥り、エネルギー価格が高騰しています。ロシアのウクライナ侵攻もこの傾向に拍車を掛けています。そのため世界の1/3の原油を生産する中東地域、とりわけペルシャ湾地域の重要性が飛躍的に高まっています。
 - ② そして、日本は、依然としてエネルギー源として原油に30%以上依存し、その95%がペルシャ湾地域から来ています。しかし、「備え無ければ憂い無し」で日本人は、この事を認識しておらず、中東に対する関心もありません。しかし、中東地域では、イランの核開発問題、イエメン内戦、シリア内戦、パレスチナ問題と紛争と対立が絶えません。
 - ③ この講義では、中東について知識の無い学生に対して、中東に関する必要最低限の知識と日本と中東の関わりについて講義します。
 - ④ 外交官というとパーティーでシャンパンを飲んでいる気楽な商売というイメージがありますが、実際はどうなんですか。外交官の実像についてお話します。